

第25回 埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年3月18日（木）18：30～20：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師（WEB参加）

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長（WEB参加）

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

山野 均 県民生活部長（WEB参加）

森尾 博之 危機管理防災部長（WEB参加）

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

萩原 由浩 副教育長（WEB参加）

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 緊急事態宣言を招いた医療のひっ迫は大分解消されているものの、陽性者数の増加は懸念材料である。（岡部委員）
- 高齢者施設での陽性者が減少しているのは、埼玉県の高齢者対策の効果が表れているのではないか。（岡部委員）
- 2回目の緊急事態宣言の延長の目的は次のときに備えた体制構築であり、この間に病床確保や高齢者対策、繁華街等でのモニタリング検査などを行える体制を整備できたことは評価できる。（川名委員）

【県の対応】

- 委員の主な意見を3月19日開催の第45回新型コロナウイルス対策本部会議において報告を行った。

イ 3月22日以降の段階的緩和措置について

- 慣れや疲れといったもので緊急事態宣言の効果が薄れてきたため、緊急事態宣言を解除して仕切り直すことはやむを得ない。（川名委員）
- 緊急事態宣言の解除が気を緩めてよいというメッセージにならないように、インパクトのあるPRをすべき。（金井委員、川名委員、坂木委員）
- 県有施設以外に対して拘束力を持たせることは難しいとは思いますが、民間に対しても同様の取組を行うよう働きかけていくべきではないか。（川名委員）
- 人が動くと感染は必ず拡大することから覚悟を持って対応する必要がある。変異株については現状原則入院になっているが、どこかのタイミングで切り替える必要がある。（岡部委員）
- 小児RSウイルスという下手をしたらコロナよりも深刻な病気が九州で増加している。コロナだけでなく、そういった感染症への対応も考えていかなければならない。（岡部委員）
- 県民へのPRについては、メリハリを付けて、県民に分かりやすいメッセージとしてできるだけ具体的に届けるべき。（川名委員、坂木委員、讚

井委員、光武委員)

- 二酸化炭素濃度測定器の補助制度はよい取組であるが、効果を高めるために使用基準の明示や導入証明ステッカーなどの制度を検討してはどうか。

(坂木委員)

- 埼玉は個々でよい取組を行っているが、それが届きにくいことが一番の問題ではないか。(松田委員)

- 医療従事者は疲弊している中で1年以上頑張ってきている。病床数は増えても医療従事者は増えていない。急に人繰りはできないことから、次の感染の波が来ることを覚悟しておかなければいけない。(川名委員、光武委員)

【県の対応】

- 県内の感染状況、委員の意見を踏まえ3月22日以降の段階的緩和措置等について決定した。(3月19日開催第45回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。)